

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都アイスアリーナ建設工事	階数	地上2F
建設地	京都府宇治市宇治折居23-1の一部	構造	S造
用途地域	指定なし、建築基準法第22条の区域	平均居住人員	3人
地域区分	6地域	年間使用時間	7,300時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2019年1月31日
敷地面積	25,370㎡	作成者	JFEシビル株式会社
建築面積	4,719㎡	確認日	2019年1月31日
延床面積	5,271㎡	確認者	JFEシビル株式会社

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

環境品質 G (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	可能な限り緑地を配し、景観に配慮した。	その他 0
Q1 室内環境	内装材はF☆☆☆☆を使用することで配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 適切な緑地づくりに配慮した。
LR1 エネルギー	屋根、外壁に断熱材を設け、建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR3 敷地外環境 LCCO2排出量の抑制により地球温暖化への配慮を行った。
Q2 サービス性能	電源設備の浸水による停電を回避する対策を講じた。	
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別可能。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される